

# 令和6年度「大仙市学校評価重点共通項目」による学校関係者評価シート

<b>学校教育目標</b> <b>チャレンジ！夢に向かって</b> <b>～ふるさとを愛し、一人一人が「か・が・や・く」国見の子の育成～</b>
--

重点目標
「か」 かんがえる子ども(自ら考え、判断し、責任をもって行動する子ども)の育成
「が」 がんばり抜く子ども(生命を大切に、生命を輝かせて日々努力する子ども)の育成
「や」 やさしさあふれる子ども(思いやりの気持ちを持ち、他者と協働して行動する子ども)の育成
「く」 くうきのおいしい学校(「きょう育」でつなげる「三方よし」の学校)

評価基準
A・・・具体的な活動がなされ目標を達成できた(肯定率が90%以上)
B・・・具体的な活動がなされているが、目標は達成できていない(肯定率が70%以上90%未満)
C・・・具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない(肯定率が70%未満)

評価点・・・「4ーよく当てはまる 3ー当てはまる 2ーあまり当てはまらない 1ー当てはまらない」の4件法で12月にアンケート調査をした結果、評価用質問内容に係る肯定率(4ーよく当てはまる、3ー当てはまる)の割合

番号	評価項目	重点項目の改善のための施策等	評価用質問内容	保護者評価		学校運営協議会委員評価		教職員評価		児童評価		校長自己評価	学校関係者評価	
				評価点	評価ABC	評価点	評価ABC	評価点	評価ABC	評価点	評価ABC	評価ABC	総合評価ABC	意見
1	「大仙教育メソッド」を踏まえた各中学校区毎の特色ある取組	○学校運営協議会を年3回開催するとともに、太田地域CS連携協議会を年2回開催し、「地域とともにある学校づくり」「学校を核とした地域づくり」を進める。 ○園・小・中連携の取り組みを推進し、課題を把握して次年度に備える。 ○園・小・中授業相互参観、小・中合同研修会において共通課題の確認と共通実践事項の推進を図る。	○学校は、ふるさと教育(米作り体験、地域花壇づくりなど)を通して、ふるさとのよさを伝えるための取組を行っている。(保護者、学校運営協議会委員、教職員) ○学校は、保護者や地域の声を生かし、保護者や地域と連携した教育活動に取り組んでいる。(保護者、学校運営協議会委員、教職員) ○地域のためになる活動に進んで取り組みたいと思う。(児童)	93%	A	100%	A	82%	B	93%	A	B	A	・児童アンケートで「地域のためになる活動に進んで取り組みたい」と回答している割合が93%というのはすばらしい。 ・子どもたちは地域のためになる活動に積極的に取り組んでいる。地域としても、とても助かっている。 ・地域人材を授業に取り入れることで、地域とのつながりがより深まっている。 ・PTA改革に取り組み、保護者の負担軽減につながっている。
2	「個別最適な学び」と「協働的な学び」の推進に向けた取組(含 GIGAスクール推進)	○「授業で生き生き!」「授業で勝負!」子ども一人一人の活力につながる三つの「わ」のある秋田の探究型授業の充実 ○1人1台端末を効果的に活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実 ・子ども自身が自己調整しながら自分の学び方、学ぶ内容を選べるようにした学習 ・多様な考えに触れながら、子どもたちが互いに支え合い、話し合いながらよりよい考えを生み出す学習	○学校は、子ども一人一人に応じたきめ細かな指導を工夫し、基礎的・基本的な学習内容の定着を図っている。(保護者、教職員) ○学校は、ICTを活用し、個別学習やグループ学習等を取り入れ、学び合う学習をしている。(保護者、学校運営協議会委員、教職員) ○コンピュータを使うことで、自分のペースで学習を進めることができていると思う。(児童) ○ふだんの授業では、学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。(児童)	100%	A	100%	A	95.5%	A	91%	A	B	A	・少人数を生かし、ICTを活用した授業が行われている。 ・「勉強が好き」と回答している子どもが多いことがすばらしい。授業が充実しているからだと思う。 ・少人数の学級であることが子どもたちの強みになっている。 ・複式指導を通して「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実が図られている。 ・家庭へのタブレット端末の持ち帰りが行われているが、全く使わない日もある。効果的な使い方について検討してほしい。
3	生徒指導上の課題への取組	○生徒指導の実践上の4つの視点(自己存在感の感受、共感的な人間関係の育成、自己決定の場の提供、安全・安心な風土の醸成)を生かした教育活動を展開し、子ども一人一人の自己肯定感や自己有用感を味わわせる指導に努める。 ○各種アンケート調査や教育相談で学級の様子や友達関係、悩みを把握し、解決に当たる。 ○保護者面談や連絡帳等を活用し、子どもの様子を情報交換しながら早期対応を心掛け、子ども一人一人が「学校が楽しい」と思って日々登校できる環境をつくる。	○学校は、子ども一人一人の個性を理解し、そのよさを伸ばす指導をしている。(保護者、学校運営協議会委員、教職員) ○学校は、子どもたちが互いに認め合い、温かみのある関係づくりに努め、いじめが起りにくい環境づくりをしている。(保護者、学校運営協議会委員、教職員) ○自分にはよいところがあると思う。(児童) ○困ったことや不安なことがあるとき、先生や家族などに相談することができていると思う。(児童)	89%	B	93%	A	95.5%	A	78.5%	B	B	B	・学校全体としてアットホームな温かさを感じるが、子ども自身が自分のよさを感じることができない子どもがいることがちょっと気になる。 ・生徒指導の実践上の実践上の視点を生かした授業づくりが行われており、そのことが豊かな人間性を育むことにつながっている。 ・一人一人の活躍の場をつくり、鍛えられることで充実感を味わっている子どもが多い。 ・家庭と連携を図りながら、子どもが抱えている悩みに先生方が対応している。
4	業務改善に向けた取組	○日課を変更し、放課後の授業準備の時間等を確保するとともに、全教職員の休憩時間を確実に確保する。 ○学校行事や会議等を精選するとともに、教頭へ業務の偏りを解消するため、地域連携担当教職員を置き、チーム学校への意識を高める。 ○「早くカエル7つの心得」を作成し、時間外勤務や業務改善への意識を高める。 ○同僚性を発揮して助言や支援を行い、教職員の負担軽減を図る。	○本校では、教職員の休憩時間が確保され、年次休暇や病気休暇等取得しやすい雰囲気づくりに努めている。(教職員) ○本校では、学校における働き方改革(特に勤務時間の短縮)が進んでいる。(教職員) ○本校は、教職員にとって働きがいのある職場である。(教職員)	/	/	/	/	93.6%	A	/	/	B	A	・様々な業務改善が行われており、そのことが働きがいのある職場づくりにつながっているように感じた。 ・地域連携担当教職員が置かれ、業務改善とともに地域とのつなぎ役となっている。 ・早くカエル「7つの心得」の内容は、その通りだと思った。ぜひ実践し、時間外勤務時間の削減につなげてほしい。 ・前年度より月平均時間外勤務時間は少なくなっている。ただし、全校音楽劇の準備期間は時間外勤務時間が増えている。